

# ヘールシュピール(ラジオドラマ)の諸相 センチメンタルテールズ

出演:ブリュンヒルド・フェラーリ、石上和也、かつふじたまこ、渡辺愛

日時:2012年11月17日(土曜日) 開場16:00開演17:00 終演20:40

【プログラム】「ヘールシュピール(ラジオドラマ)の諸相～センチメンタルテールズ」

開演前・休憩時にハワイエにて リュック・フェラーリ / ブリュンヒルド・フェラーリ Music Promenade(1964-1969)

- プログラム1(17:00～) 邦人作曲家作品+リュック・フェラーリ作品  
石上和也「新作」 かつふじたまこ「新作」 渡辺愛「新作」リュック・フェラーリ「Saliceburry Cocktail」
- プログラム2(18:20～) リュック・フェラーリ / ブリュンヒルド・フェラーリ 作品  
その1「甘いカオス」(新作)「Presque Rien No.4 (Contes sentimentaux)」
- プログラム3(19:30～) リュック・フェラーリ / ブリュンヒルド・フェラーリ 作品  
その2「Far West News 2」 「Les Anecdotes」

会場: **ジーベックホール** 神戸市中央区港島中町7-2-1 tel:078-303-5600

料金:2,000円(定員100名) 主催:センチメンタルテールズ上演委員会

予約問合せ:C.A.P. 078-222-1003/info@cap-kobe.com(担当:下田)



協賛: TOA株式会社 後援: 同志社女子大学音楽学科、同志社女子大学音楽学科「顕啓会」制作協力: 株式会社ジーベック  
協力: 同志社大学今出川校地学生支援課、武蔵野美術大学、キャロサンプ企画、C.A.P.(芸術と計画会議)

Supported by  TOA

日本において、ドイツ音響芸術の重要なジャンルであるヘルシュピールの紹介をまとめた形で行う初めての試み。ヘルシュピールとは、「ヘル=聴くこと、聴覚」、「シュピール=戯れ、ゲーム」の合成語で、「聴くことの戯れ」とか、実際にはラジオで聴かれるので、「ラジオ音響作品」、「ラジオドラマ」などと訳すことができる。すでに1925年に、最初期の映画の実験の経験から、テーマも主題もない純粋に音楽的なドラマの可能性を、クルト・ヴァイルは予感していた。プレヒトにとっても、当時はラジオによってしか演劇を放送できないことから、映像がなく音響を非常に大事にしたドラマへの配慮があった。実際の音響作品としてのヘルシュピールが制作される第一歩は、映画監督ワルター・ルートマンが1930年に発表したラジオ・モンタージュ『ウィークエンドWeekend』である。このジャンルは50年代には主に言葉を中心に、そして60年代からはかなり実験的な作品が次々に発表されることになる。リュック・フェラーリの作品はその頃からドイツで発表され始める。初期の代表作は1971年の『肖像=戯れPortrait-Spiel』。その後、1980年には今年生誕100年のジョン・ケージ『ロアトリオRoaratorio』や、マウリチオ・カゲルの『護民官Der Tribun』などが発表される。今回は、フェラーリの協力者として常に彼の創作活動に寄り添って来た、ブリュンヒルド・フェラーリとの共作として発表された一連の『センチメンタル・テールズContes sentimentaux』と、日本側でのヘルシュピールの創作例として、石上和也、渡辺愛、かつふじたまこの電子音響作品も合わせて、このジャンルの多様な側面を紹介する企画となっている。フェラーリ作品については、ブリュンヒルドさん本人も来日され、お話と演奏をしてもらうことになっている。

椎名亮輔:センチメンタルテールズ上演委員会/音楽学者[音楽美学、音楽哲学] 同志社女子大教授

## ヘルシュピール(ラジオドラマ)の諸相 センチメンタルテールズ

### 【作曲家プロフィール】

リュック・フェラーリ  
Luc Ferrari



1929年2月パリ生まれ。コルトー、オネゲル、メシアンに師事。GRM創設においてピエール・シェフェールと共働する。器楽、ミュージック・コンクレート、電子音響音楽、映画、インスタレーションなど、さまざまな分野で活躍する。スタジオ「回路の詩神」を設立したが、後に離れる。その後、個人のホームスタジオ「アトリエ・ポスト=ピリッピ」を作る。世界各地で演奏、講演、教育活動を行う。イタリア賞、クーセヴィツキー賞など多数受賞。2005年8月イタリアにて客死。

ブリュンヒルド・フェラーリ  
Brunhild Ferrari



フランス放送協会探求局で数年間、音と映像関係の仕事に従事する。その後長い間、通訳=翻訳者として働きながら、リュック・フェラーリとの共同生活の中で教えを受け、フランス・キュルチュール、米国、ドイツラジオ放送のためにヘルシュピールとラジオ番組を制作。リュック・フェラーリの没後は、リュックの残したアーカイヴを整理し、アンソロジー「プレス・リヤン」を設立。全力で運営にあたりつつ、同時に作曲活動も行っている。

石上 和也  
Kazuya Ishigami



1972年大阪生まれ。1995年[DARUIN]名義でライブ演奏を開始。1996年[BILLY?]に加入。1997年INA-BILLYで夏期アトリエに参加し作品発表。2005年9月、DRドイツ国営放送にて[Sonic Escapism]初演・放送。2006年6月、DRドイツ国営放送にて[Whisper of Sound God]放送。2010年2月、実験音楽レーベルOMEGA POINTから作品集CD「発心の兆」リリース。自主レーベル[NEUS-318]を主宰。

かつふじたまこ  
Tamako Katufuji



大阪生まれ。音楽家。90年代半ば、詩や言葉を使った音作品の制作を開始。2000年、フランス国立視聴覚研究所GRMにて電子音楽の作曲を、2005年、FUTURAにてアコースモニウムの演奏を学ぶ。日常や非日常で聞こえたり、聞こえなかったりした音に耳を澄ませ、紡いでいく。音作品は海外でも評価が高く度々上演、放送される。小さな日用品などから、ときめく音を見つけ、即興演奏で独自の音世界を創り出している。http://www.geocities.jp/hello\_tsukineco/

渡辺 愛  
Ai Watanabe



東京音楽大学大学院作曲専攻修了。パリ国立地方音楽院で電子音響音楽作曲及びエレクトリチュールを専攻。現在、東京藝術大学大学院音楽文化専攻・音楽音響創造博士後課程に在籍。器楽作曲・アコースマティック・即興など多岐に渡り、ダンスやインスタレーション、映画や映像との協働作品も多数発表している。ピエール・シェフェール賞(フランス)・JAPAN2011受賞(イタリア)等、受賞歴多数。日本電子音楽協会会員。2012年度ロームミュージックファンデーション奨学生。

【関連企画】●11月10日(日)・12日(月) [日曜日休館] 10:00-18:00 武蔵野美術大学(東京都小平市小川町1-736)リュック・フェラーリ・インスタレーション『思い出の循環/Cycle des souvenirs』  
●11月12日(月) 16:30-18:00 武蔵野美術大学12号館1階ビデオアトリエ ブリュンヒルド・フェラーリ&椎名亮輔トーク(入場無料) ●問合せ:映像学科(クリストフ・ジャール)http://eizoumusabi.ac.jp/tel042-342-6070 ●11月5日(月)~9日(金) 同志社女子大学 京田辺キャンパス mscギャラリー(京田辺市)リュック・フェラーリ・インスタレーション『思い出の循環/Cycle des souvenirs』各日9:30-19:30 会期中無休 ●問合せ:同志社女子大学情報メディア学科事務局 tel:0774-65-8635 同志社女子大学情報メディア学科/音楽学科共催 ●11月11日(日) 西麻布SuperDeluxe(東京都港区西麻布3-1-25 B1F tel:03-5412-0515 https://www.super-deluxe.com) 8chマルチスピーカーシステムによるリュック・フェラーリのミュージック・コンクレート作品の上演 出演:ブリュンヒルド・フェラーリ、大友良英 ●問合せ:キャロサンブ http://www.callthump.info info@callthump.info ●11月15日(木) 京都市 同志社大学寒梅館ハーディーホール(リュック・フェラーリと~音楽をめぐる映画)16:30『プリズムの色、時間のメカニクス』/制作・監督:ジャクリヌ・コー/作:ダニエル・コー18:30 挨拶:ブリュンヒルド・フェラーリ『クロノポリス』/監督:ピョートル・カムラー/音楽:リュック・フェラーリ『リュック・フェラーリとほとんど何もない』/監督:ジャクリヌ・コー、オリヴィエ・パスカル 料金:当日通し券1000円均一 \*1作品のみ鑑賞でも1000円\*同志社大学学生・教職員(同志社内諸学舎含む)は無料 主催:問合せ:同志社大学今出川校地学生支援課/Tel 075-251-3270/E-mail ji-gakse@mail.doshisha.ac.jp 共催:センチメンタルテールズ上演委員会